

第3次富山市総合計画策定方針

TOYAMA CITY

(1) 策定の背景①

コンパクト&スマート

01

- 人口減少下で持続可能なまちづくりを目指すためには、居住や生活サービス機能を集積し、生活の利便性の向上が必要
- 近年目覚ましい発展をみせるデジタル技術を活用し「コンパクトなまちづくり」を深化させ、産学官民が連携して地域課題の解決を図ることが重要

こどもまんなか

02

- 「子育て日本一とやま」を目指し、令和5年6月に「こどもまんなか応援サポーター」を宣言
- 既存の子育て支援策の認知度を高めるため情報発信を強化することに加え、「理想の子どもの数をより多くの人が実現」できるような支援を、ライフステージに即して分野横断的に実施することが重要

AI等の最新技術の活用

03

- AIをはじめとしたデジタル技術は急速に進歩しており、自動運転の実用化など、今後も技術革新が次々と起こることが期待できる
- 最新技術の活用が地域課題解決の鍵であり、積極的な活用の必要性が高まっている

(1) 策定の背景②

激甚化する災害への備え

04

- 令和6年元日に発生した能登半島地震による被害を踏まえ、災害に強いまちづくりの必要性が強まる
- 防災に向けた基盤整備、「自助・共助・公助」の災害対策、災害時に迅速に対応できる体制を着実に備えることが必要

ファシリティマネジメント

05

- 高度成長期に集中的に整備された道路・橋りょう・上下水道などの社会インフラが一斉に更新時期を迎えようとしている
- 「緊急度」と「重要度」の視点から、限られた予算と人材を使つての賢い対策が必要になっている

脱炭素社会の実現

06

- パリ協定に基づき世界各国が地球温暖化対策に取り組んでおり、我が国においても、2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロを目指している
- 本市は、令和3年3月に「ゼロカーボンシティ」を表明。官民が連携し、地域が一体となって脱炭素社会の実現に向けた取組を推進

(2) 策定の趣旨

社会情勢が大きく変革する中、ますます高度・複雑化する行政需要を踏まえ、本市が抱える課題に対し、これまでの取組をさらに発展、深化させ、効果的に実行することが求められている。

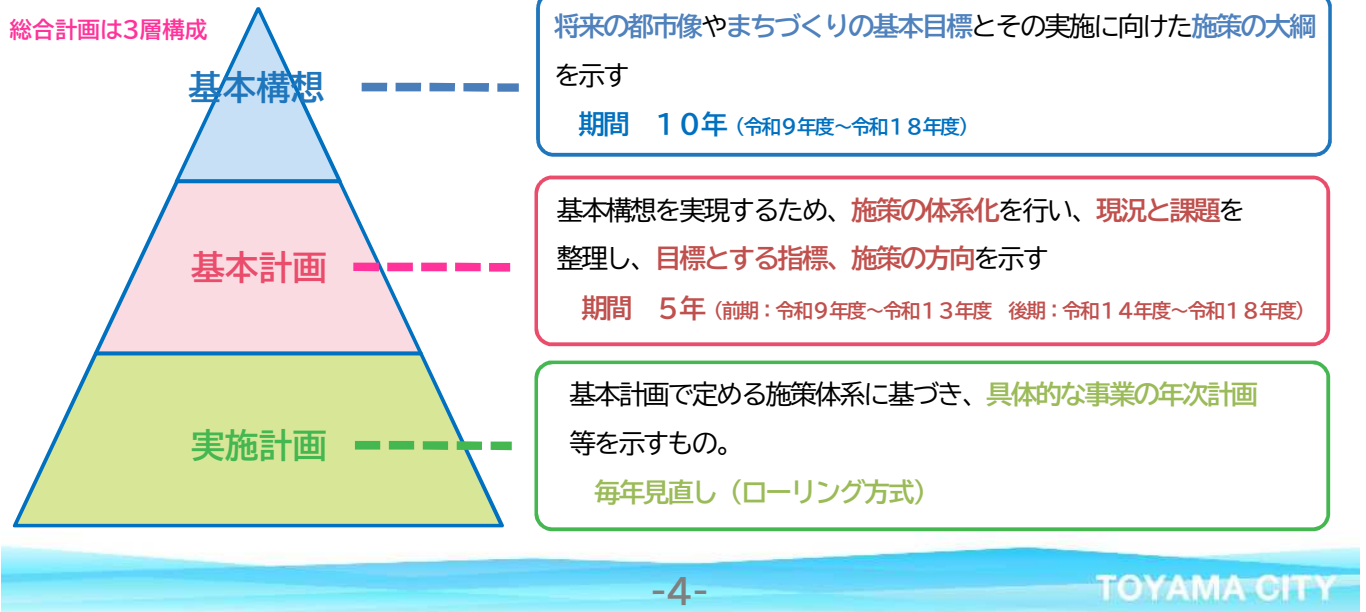


市民が主役となって生き活きと輝き、夢と希望を持って暮らせる「幸せ日本一とやま」の実現に向け、令和7年度から2か年をかけて、第3次富山市総合計画を策定するもの。

(3) 総合計画の位置付け・構成

- 本市の最上位の計画
- まちづくりにおける長期的かつ基本的な方向を示すもの
- 目指すべき都市の将来像について、市民と行政が協働で取り組む目標を定め、その実現のための指針となるもの
- 各種個別計画の策定・改定にあたっては、本計画の内容を遵守

総合計画は3層構成



(4) 総合計画の策定及び議決

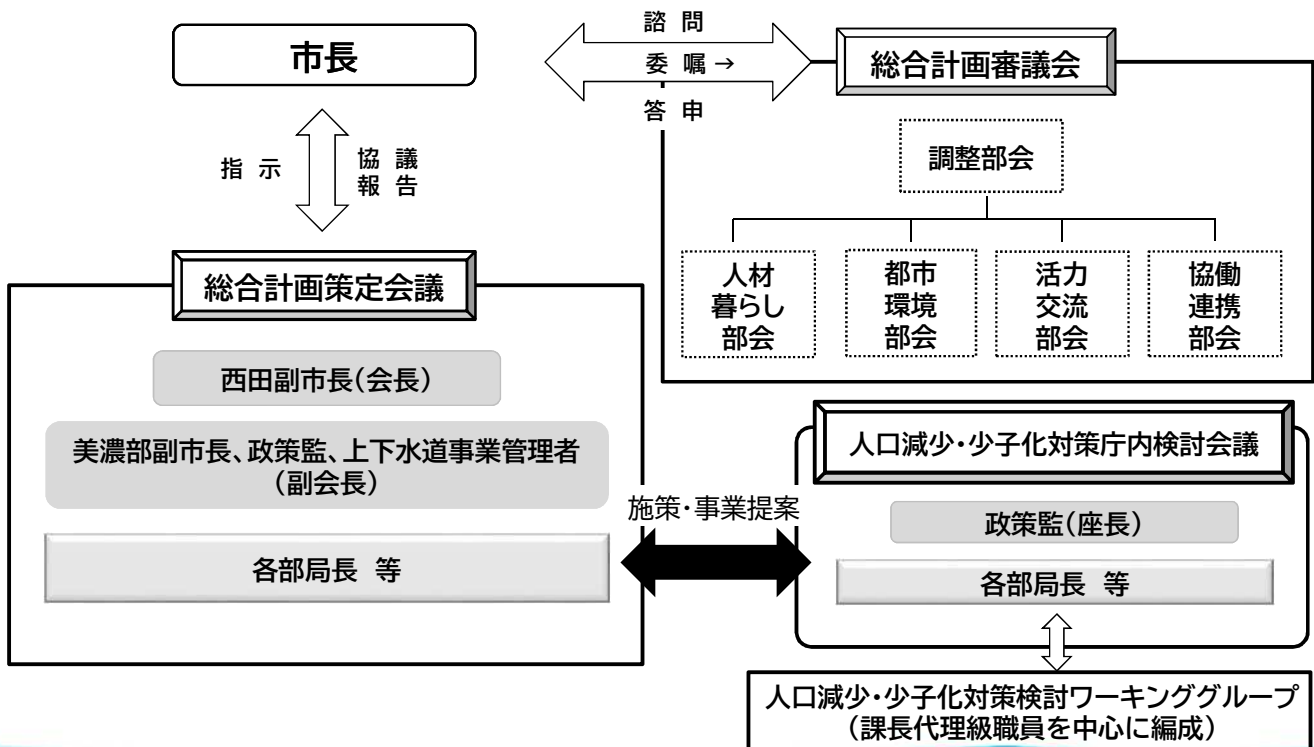
平成23年の地方自治法改正により、基本構想の法的な策定義務がなくなり、策定及び議決を経るかは市町村の判断に（自治体の計画策定の自由度を高め、創意工夫を促進）

平成31年3月議会において、議員提案により「富山市総合計画の議決に関する条例」が制定され、「基本構想又は基本計画の策定」等については「議決すべき事件」に

令和8年12月議会に、基本構想及び前期基本計画案を提案予定

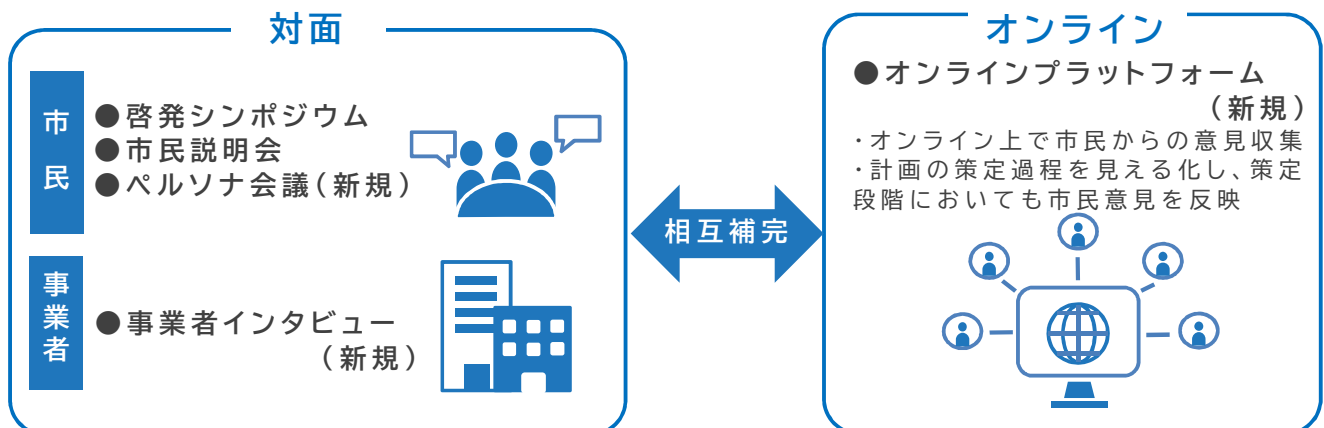
(5) 策定体制

- 第3次富山市総合計画策定のため、次の審議会等を置く。



(6) 市民参画

- 従来の対面の市民参画に加えて、オンラインプラットフォームの活用により、会議の参加が困難な市民(20代~40代の子育て世代など)の意見なども幅広く募る
- 事業者向けインタビューを実施し、事業者目線の課題・ニーズを把握
- 人口減少・少子化対策を進める上で、ターゲットとなる具体的な人物像(ペルソナ)を設定した市民会議(ペルソナ会議)により施策を検討



(7) 第3次総合計画における政策分野

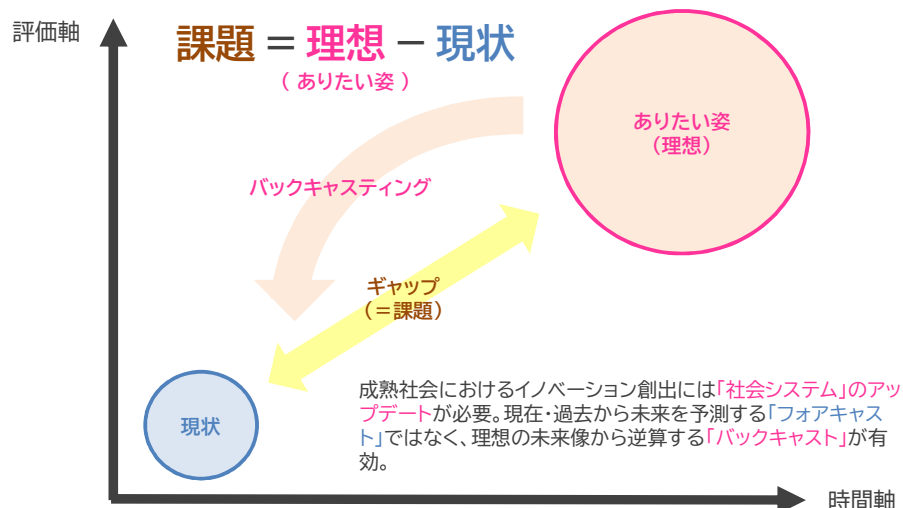
- 14の政策分野を設定し、新しいまちづくりを推進



(8) 策定の方向性①

計画全般

- 本市が直面する課題が複雑化・高度化するなか、将来の確かな展望を見通していくため、将来の理想的なありたい姿を描いたうえで、その姿を実現するために取り組むべきことを明らかにしていく「バックカスティング」の考え方で計画を策定する



(8) 策定の方向性②

計画全般

- 人口が加速度的に減少し、マンパワーも財源も減り続けることを前提に、「選択と集中」によるメリハリのついた総合計画とし、限られた資源で持続可能な都市運営の実現を目指す



【施策の厳選】（p 13）

- 基本計画には分野ごとの「目指すべき方向性（目標）」の到達に資する施策・事業を掲載

【重点プロジェクト】（p 14）

- 施策・事業のうち、特に部局横断的に取り組むべき「主要課題」の解決に資するものを「（仮称）重点プロジェクト」に位置付け

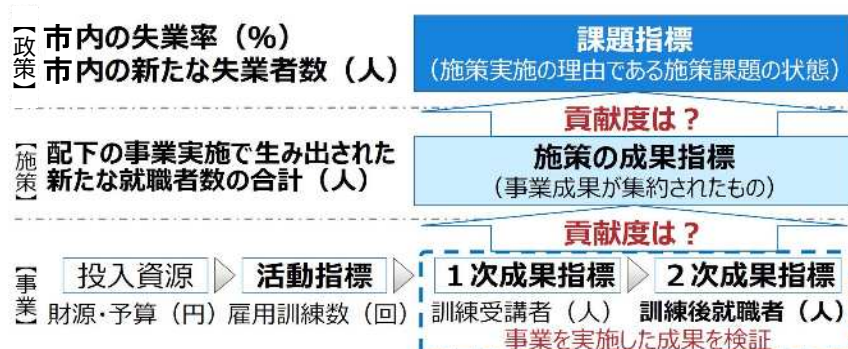
(8) 策定の方向性③

政策体系の戦略化

- 基本計画において、分野ごとの「目指すべき方向性（目標）」を明確化
- 目標達成のために必要な政策→施策→事業を、目的・手段の論理的関係で構築
- 政策・施策・事業の各階層ごとに、指標を正しく設定し、成果（貢献度）を検証

イメージ

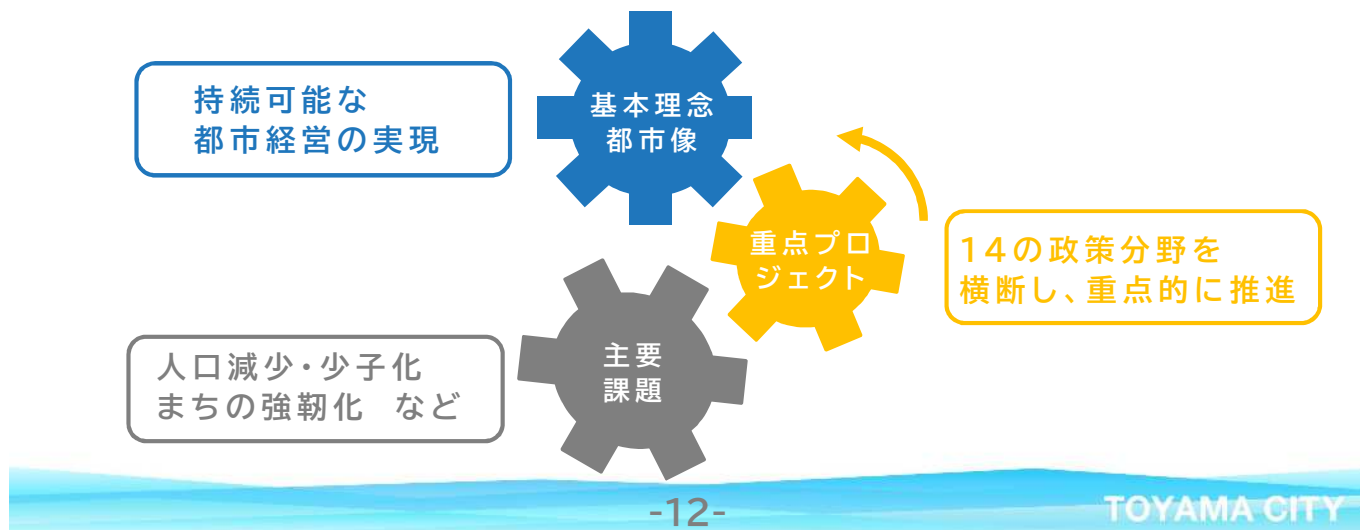
Ex.指標設定の具体例(雇用促進)



(8) 策定の方向性④

主要課題 ・ (仮称)重点プロジェクト

- 分野横断的に取り組むべき主要課題を設定
- 「主要課題」の解決に資する施策・事業を「(仮称)重点プロジェクト(分野横断的・重点的に推進する政策パッケージ)」として位置づけ
- 基本理念・都市像に掲げたあるべき姿を実現する



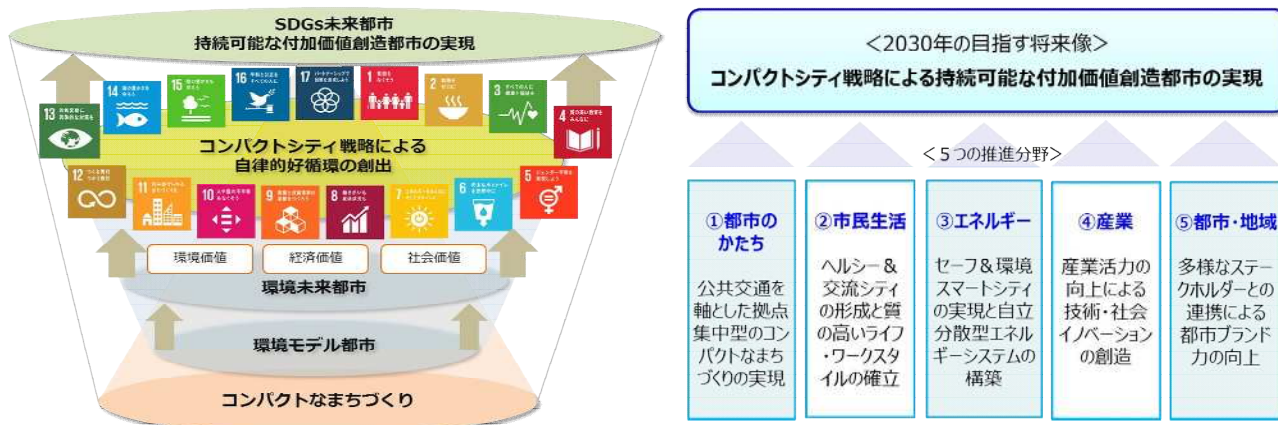
(8) 策定の方向性⑤

SDGsの推進

- SDGsの更なる推進を目指し、第3次富山市総合計画にSDGs未来都市計画の内容を包含し、一体的に策定する

(参考)第2次富山市SDGs未来都市計画

計画期間 令和3年4月～令和8年3月(5年)



(8) 策定の方向性⑥

市民に届く情報発信

- 市民に届く市民目線の分かりやすい総合計画を目指す

工夫のイメージ

1

手に取りたくなる
デザイン性を訴求

2

重点的に伝える
べき情報に整理

3

数値・写真・イラスト
を効果的に使用

「都市の将来像」を市民と共に目指す